

第 4 学年

総合的な学習の時間

みんなにやさしい町づくりものづくり

～みんなの不便を解決しよう～（単元計画／全 30 時間）

支援の必要な人への理解

18

学習活動①：国語「だれもが関わり合えるように」資料、『手と心で読む』を読み、点字について知る。（1時間）

学習活動②：点字体験や聴覚障がい者との交流を通して、障害による不便さや工夫された対処法などについて、興味をもつ。（2時間）

学習活動③：ユニバーサルデザインの学習を通して、感じたことを交流する。（1時間）

・身近な生活の中にもこまっていることがあると感じている人がいることを知る。

学習活動④：こまっている人が、どこで、どんな時にこまっているかを予想し、出し合い、そのため自分ができるを考える。（3時間）

本時 7/18

・アイマスク体験、耳栓体験を行うことで、改めて支援の必要な人の生活の不便さを考える。また、身近な人でこまっていることがあるかどうか出し合い、調べる。

留意点

- ・支援の必要な人に目を向けられるようにする。
- ・学習活動④でさらに課題がもてるように課題意識をもたせる。

学びに火をつける

学習活動⑩：みんなにやさしい町づくり・ものづくりについて自分にできることを出し合う。（1時間）

やさしい町づくり・ものづくり

12

<ものづくり>

- ・小学生が特許を取った空き缶選別マシンなどの記事を読み、町の中に少しでも不便さがなくなるようにできることを考える。

<町づくり>

- ・駅などの人が多く利用する場所でも階段の手すりがないところがあるからつけた方がいい。
- ・バス停に椅子があったら、座って待つことができる。

留意点

- ・自分達にできることを話し合わせる。
- ・どんなに小さなことでもよいこととする。

学習活動⑤：車いす体験、松葉杖体験を通して、感じたことを交流する。（1時間）

学習活動⑥：調べたいテーマを決め、グループに分かれて調べる。（3時間）



留意点

- ・実際に体験することで、自分のこととして捉えられるようにする。

調べる

学習活動⑪：みんなにやさしい町づくり・ものづくりのためのアイディアを考え、準備する。（3時間）

予想されるアイディア

- ①教科書やノートに触って分かる印があれば、取りやすい。
- ②テレビにいつも字幕があるといい。CM にも字幕があると分かりやすい。
- ③手を使わなくともくつを履かせてくれる道具
- ④大事なものをなくさないように仕分けるできる磁石のついた小物入れ

留意点

- ・ユニバーサルデザインの学習を想起させる。

学習活動⑦：調べたことについて、発表資料にまとめる。（4時間）

・発表の形式は限定せず、学級の中での発表資料としてまとめる。



留意点

- ・電子黒板を使って資料を提示したり模造紙にまとめて発表してもよいことを伝える。
- ・発表までに実際に見たことや聞いたことを共有できるといいことを知らせておく。

まとめる

学習活動⑫：国語「クラブ活動リーフレットを作ろう」の学習を活用し、今までに学習したことで自分にできることを考え、リーフレットにまとめる。（1時間）

・やさしい町づくりとして、町の人に呼び掛けるためのリーフレットの内容を考える。

留意点

- ・町の人へ呼び掛けられるようなリーフレットにするため、写真を取り入れたり、実際にこまっている方への行動のしかたなどの具体策を載せたりする。

学習活動⑧：調べたことを発表し、共有する。（2時間）

学習活動⑨：認知症センター養成講座を通してこれからの高齢化社会に向けて、自分はもちろん、町や区で考えていく問題として広げる。（1時間）



留意点

- ・発表し合い、どんな人も暮らしの中に不便を感じていることに再度気付かせる。
- ・認知症センター養成講座では、実際に認知症の方との接し方をロールプレイを通して実感させ、児童がこまっている方に出会った場合での対応のしかたを学ばせる。

伝え合う

学習活動⑬：校内にリーフレットを配布し呼び掛けをする。（1時間）

学習活動⑭：アイディアを発表し、その中で生せる方法を考え、発信する。（3時間）

- ・考えたアイディアを実際に使ってもらえるような企業へ、手紙や電話、FAX などで提案する。
- ・学校周辺のお店や施設へは、足を運び、リーフレットを配布するとともに、アイディアを伝えに行く。

留意点

- ・ただ、配布するだけでなく、まちの中で人々が優しく接することのできる工夫を呼びかける。
- ・この学習がやさしい町づくりの第一歩として始まっていることに気付かせ、隨時、自分がやさしい町づくりに貢献したことを学級内の児童全員に共有できるようにする。